



日越友好関係推進へ 互いに貢献期待 レ・ミン・カイ・ベトナム副首相歓迎昼食会

民間外交推進協会（FEC）は5月22日、国際交流会議「アジアの未来」に出席のために来日中のベトナム社会主義共和国のレ・ミン・カイ副首相との歓迎昼食会を帝国ホテル東京で開催した。昼食会には、ベトナム側からカイ副首相のほかファム・クアン・ヒエウ駐日ベトナム大使、マイ・ティ・トゥ・ヴァン首相府官房局次長等8人、FEC側からは松澤建FEC理事長、湯下博之FEC専務理事、会員企業代表者等8人が出席した。

冒頭、松澤理事長が「本日レ・ミン・カイ副首相閣下をはじめ閣僚の皆様方をお迎えする事は、私共一同にとって光栄である。皆様方の来日が実り多いものとなり、ベトナムと日本の関係が更なる発



展に向かうことを確信している」と開会挨拶を行った。

続いて、カイ副首相が「本日は皆様とお会いすることができ嬉しく思っている。ビジネスフォーラムや訪問団の派遣など日越関係の発展に貢献しているFECの活動に対

して敬意を表する。両国関係が包括的戦略的パートナーシップへ格上げされたが、日本はベトナムにとって最重要のパートナーであり、ODA、労働、投資、観光などさまざまな分野で協力を長年にわたり続けていく。今後の更なる日越友好関係推進のため、お互いに具体的、効果的に貢献していくことを期待している。皆様とベトナムで再会できることを願っている」と述べた。

その後、昼食をともに出席者の自己紹介が行われた後、最後に全員で記念撮影を行い終了した。

アジア・ゼロエミッション共同体実現へ協力強化

アリフィン・タスリフ・インドネシア・エネルギー鉱物資源大臣歓迎朝食会

民間外交推進協会（FEC）は5月23日、同会議に出席のために来日中のインドネシア共和国のアリフィン・タスリフ・エネルギー鉱物資源大臣との歓迎朝食会を帝国ホテル東京で開催した。朝食会には、インドネシア側からタスリフ大臣のほかヘリ・アフマディ駐日インドネシア大使、デウヴィ・スチップト石油ガス上流事業監督執行機関会長等7人、FEC側からは松澤理事長、柄尾雅也FEC日アセアン文化経済委員会委員長（味の素（株）アドバイザー）、尾ノ井芳樹FEC日アセアン文化経済委員会副委員長（電源開発（株）エグゼクティブ・シニアフェロー）等8人が出席した。

冒頭、松澤理事長が「本日タスリフ大



臣閣下をはじめ皆様方をお迎えする事は、私共一同にとって光栄である。閣下の駐日大使時代には両国のために種々ご指導いただいた。再会できたことを大変嬉しく思う。インドネシアと日本の関係が更なる発展に向かうことを期待してい

る」と開会挨拶を行った。

続いて、タスリフ大臣が「本日は朝食会にご招待いただき光栄であり、皆様と再会できたことを嬉しく思っている。インドネシアに戻り大臣に就任してからも、日本との友好関係を非常に重要視し

ている。アジア・ゼロエミッション共同体の実現に向けて両国間の協力を引き続き強化していきたい」と述べた。

その後、朝食をともに出席者の自己紹介が行われた後、最後に全員で記念撮影を行い終了した。

ゴンボジャブ・ザンダンシャタル・モンゴル国家大会議議長と歓迎朝食会

民間外交推進協会（FEC）は5月24日、同会議に出席のために来日中のゴンボジャブ・ザンダンシャタル・モンゴル国国家大会議議長との歓迎朝食会を帝国ホテル東京で開催した。議長とは2023年3月に歓迎朝食会を行って以来2度目の朝食会になる。朝食会には、モンゴル側からザンダンシャタル議長のほか、バンズラグチ・バヤルサイハン駐日モンゴル大使、バヤルトゲトフ・エンフウンドラム・モンゴル国国家大会議議長事務局長、サンボー・ダワーダシ・モンゴル国国家大会議事務局涉外課長等8人、FEC側からは松澤理事長、ペマ・ギャルボ拓殖大学国際日本文化研究所教授、高村美己志東亞合成（株）代表取締役社長、松本謙一サクラグローバルホールディング（株）代表取締役会長等12人が出席した。

冒頭、松澤理事長が「皆様方をお迎えする事は、大変



光栄なことである。議長のご活躍は皆様良くご存じの通りであり、これまで日本とモンゴルの関係促進の為に尽力されたことに深く敬意を表したい」と述べた。

続いてザンダンシャタル議長が「皆様と再会できて嬉しいと思う。FECは日本・モンゴル両国の発展の為に尽力され

ていることに感謝申し上げたい。日本は民主主義の価値観を共有する「第三の隣国」である。今後も人を基盤とし、あらゆる分野で協力関係を構築していきたい」と述べた。

その後、食事をとりながら日本側の出席者が自己紹介を行い、記念品交換と記念撮影を行い終了した。

「オーストラリア・ビジネスフォーラム」

エネルギー、資源 相互補完の協力関係深化へ



FECは5月16日、第282回国際研究会（ビジネスフォーラム）をジャスティン・ラウール・ハイハースト駐日オーストラリア大使のご厚意で、オーストラリア大使公邸で開催した。松澤建FEC理事長の開会挨拶の後、ハイハースト大使が講演を行った。続いて参加者が自己紹介し、今後の両国間のビジネス協力の可能性につき意見交換を行った。

【大使講演】

日豪関係には3本の柱があると考えている。1つ目が戦略的協力、2つ目が貿易・投資・脱炭素化、3つ目が人的往来である。経済面での日豪関係は既に強固であり、オーストラリアにとって日本は2番目に大きな貿易相手国で、直接投資の累積額で見ても日本は第4位となっている。日本のエネルギー自給率は13%、食料自給率は38%で外国に頼っているのが現状で、オーストラリアはエネルギー自給率、食料自給率ともに世界トップクラスのため重要なパートナーとなっている。日豪関係の土台となっているのはエネルギーと資源であり、相互補完性が高い。

オーストラリアは、日豪のエネルギー協力に戦略的な面があることを理解しており、ネットゼロを考慮すると脱



第282回国際研究会

駐ジャスティン・ラウール・ハイハースト オーストラリア大使

炭素化やクリーンエネルギーなどエネルギー安全保障の協力を深化するべきであると考える。オーストラリア政府はネットゼロ変革促進を目的として新しい予算案を発表した。今後10年間で2.4兆円の投資を見込んでいる。

重要なポイントとして、再生可能エネルギー、水素、重要鉱物、グリーンメタル、バッテリー、ソーラーパネルなどに焦点が当てられている。水素などのグリーンエネルギーの技術は両国にとって非常にプラスの機会になるだろうと考えており、取り組みを進めることでオーストラリアはこの分野の超大国になることもできると信じている。

サプライチェーンの更なる強靭化のため、電気自動車、バッテリーなどへ

の技術支援と重要鉱物の生産が重要である。日本には資本、技術プラス需要があり、オーストラリアは天然資源に恵まれ、専門知識を確立している。我々はこれらの強みを組み合わせることで日豪の相互補完の協力関係を深化していく必要がある。経済安全保障を守るために人工知能と量子計算機への投資協力や研究開発も重要となってくるだろう。最先端技術は新たな協力可能性の最前線となっている。

オーストラリア政府は、外国人投資家に向けて簡素化と透明性を強化するための取り組みを行っている。これにより日本の投資家にとっては許認可のスピード向上、コンプライアンスコストの削減などのメリットがある。日豪の経済協力の最大の課題であるしっか

りと機能する市場と資本による両国のルールに基づく貿易を推進している。

しかし、安全保障リスクに歪みが生じる問題への対処が必要となるケースもある。自信をもって取引や投資をするためには安定的で法律に基づいた投資環境を構築することが重要である。日豪関係にはもちろん課題もあるが、適切な情報共有をする仕組みの構築、サイバーセキュリティ対策も重要であると考えている。

日豪両国は、その相互補完性を踏まえて力を合わせることで目標実現に向かって進むことを期待したい。私が紹介した事例から日本との強い絆を感じていただきたいと願っている。また、両国だけでなく太平洋地域や世界にも成果を生み出すことができるだろう。

「チェコ・フォーラム」

高付加技術による先進的分野の協力に期待



第149回国際研究会

駐マルチエン・クルチャ大使



FECは5月23日、第149回国際研究会（チェコ・フォーラム）をマルチエン・クルチャ駐日チェコ共和国大使のご厚意で、チェコ大使館で開催した。松澤理事長の開会挨拶の後、クルチャ大使が挨拶を行った。続いて、チェコ政府観光局の麻生理子PR & マーケティングマネージャーが「観光地としてのチェコ共和国」、在日チェコ商工会議所の渡邊ロマン会頭が「在日チェコ商工会議所の紹介と活動」をテーマにそれぞれプレゼンテーションを行った。最後に記念撮影をし、大使館によるもてなしで参加者は懇親の時間を過ごした。

【大使挨拶】

2年ぶりにチェコ大使館で欧州研究会を開催し、多くの皆様を大使館にお迎えすることができ大変嬉しく思う。

日本は安全保障や政治協力を深める共通の関心を持った重要なパートナーである。今年2月にヤン・リパフスキ外務大臣が来日した理由もその一つである。経済面において、チェコにとって日本はアジアで2番目に大きな貿易相手国である。私たちは二国間の経済関係を重視しており、更なる協力の可能性を感じている。現在270社ほどの日本企業がチェコに進出しており、

5万5000人以上の従業員を雇用している。

私たちは日本がアジアで最も信頼できるパートナーであると考え、さまざまな価値観を共有できる長年の緊密で安定した関係を非常に重視している。対外貿易に大きく依存する開放経済国であるチェコは、日本と同じく自由貿易協定を強く支持している。そのため今年発効から5年を迎えた日本と欧州連合の日EU経済連携協定(EPA)の採択を歓迎した。現在もチェコは日本と共に保護主義的な傾向に断固反対している。

チェコは日本との経済協力で特にロボット、オートメーション、インダストリー4.0のような高付加技術による先進的な分野による協力の発展に関心

を持っている。チェコの豊かな産業拠点と隣国ドイツとの緊密な経済関係、技術志向の大学を多数擁する伝統的な先進技術教育制度は、将来これらの分野でも協力関係を発展させる理想的な条件を創出している。このことはチェコ企業の日本での活動量が増加していることからもお分かりいただけるだろう。

両国のビジネス交流は着実に成長しており、今後も多くのチェコ企業が商品、サービスの輸出だけでなく投資のパートナーとして日本を認識していくと考えている。

また、両国間の人と人の交流や観光分野も重要な柱となっている。布拉ハと東京を結ぶ直行便がないにもかかわらず、コロナ禍以前にチェコを訪れる

た日本人観光客数は毎年10万人を超えていた。日本へのチェコ人観光客数も年々増加しており人気の目的地となっている。しかし、先日のリパフスキ外務大臣訪日の際、上川陽子外務大臣と日・チェコ航空協定に署名したことで将来直行便の運航に向けて大きな前進となった。魅力的な観光地としてのチェコをこれからもPRしていきたい。

本日の参加者の皆様をはじめとする日本の皆様との今後の更なる協力を期待している。本日のフォーラムがその一助となることを願っている。また、2025年に開催する大阪・関西万博において「人生のための才能と創造性」をテーマとしたチェコパビリオンに皆様をお迎えできることを楽しみにしている。

Courtesy

Call

■駐日キューバ共和国大使

国交95周年、すべての分野で関係強化を

▷ 6月6日=ヒセラ・ペアトリス・ガルシア・リベラ駐日キューバ共和国大使

湯下博之FEC専務理事は、ヒセラ・ガルシア駐日キューバ共和国大使を訪問した。大使は、ラウル・ロア国際関係大学卒業、国際関係学士。1984年外務省入省、カリブ海諸国連合職員等を経て2004年駐ジャマイカ大使、10年中南米カリブ局次長（大使）、12年駐アンゴラ大使、18年サハラ以南アフリカ局長（大使）、20年カナダ・ヨーロッパ局長（大使）を歴任し、23年11月に着任した。

【大使のコメント】

私は、日本には大使として着任する直前の23年10月にキューバの外務次官を団長とする政策対話の一員として訪日したのが初めてで、アジアも初めてである。

来日して以来、毎日日本に熱中している。鎌倉を訪問し、流鏑馬を見たりしたが、古い伝統や文化の保存

に熱心なことに感銘を受けた。日本人はもの静かで、親切で、回復力があり、よく組織され、規律正しい。仕事をするには大変良い国だと思う。

日本を担当することになって初めて知り驚いているが、キューバと日本は400年以上前に支倉常長の慶長遣欧使節団がキューバを訪れた古い歴史があり、ハバナ湾入り口には常長の銅像もある。2014年には交流400年の文化行事が行われた。18年には日本人のキューバ移住120周年、19年には外交関係樹立90周年で文化行事が行われた。今年は外交関係樹立95周年である。両国間では定期的に政策対話も行われている。

農業、水、再生エネルギー、廃棄物リサイクリング等の分野での日本の協力を感謝しているが、経済関係を深めたい。1960、70年頃は、技術、医療、運輸、建設等の分野で両国間に交流があった。米国による制裁

措置との関係で日本を含む他の国々との関係にも影響があり、複雑な環境の下にあるが、改革を試みている。21年に新政策が導入され、マリエル開発特区を設けて外国企業の誘致に乗り出している。キューバの中小企業の育成も重点であり、この面での日本の協力を得たい。今月、キューバから企業団が来日し、日本のノウハウを学ぶことになっている。

文化面では、日本ではキューバの音楽やダンスはよく知られており、上述のとおり、記念行事等で文化事業が行われている。大使として勤務中に、キューバを売り込むこと、経済交流、文化交流に力を入れたい。観光にも力を入れており、コロナで減少した日本からの観光客を増やしたい。



論点

日中韓とASEAN有志が共存共栄の先導役に

4月の岸田首相の成功裡の訪米に続いて、5月末には、日本外交及び北東アジアの平和と繁栄にとって極めて重要な出来事があった。

日中韓3カ国の首脳がソウルで4年ぶりとなる会談を行い、「未来志向」の協力関係を築くことを確認した。懸案の解決が見られた訳ではないが、共同宣言には人的交流の拡充や少子化対策での協調など具体策が盛り込まれた。

緊張が高まる東アジアで日中韓の首脳が顔を合わせ、未来志向の協力の方向性を打ち出したことの意義は大きく、是非この方向性を定着させ具現化させることが願われる。

首脳会談に合わせて、日中韓3カ国の

経済団体がソウルでビジネスサミットを開き、サプライチェーン（供給網）の強化やエネルギー分野での協力を約束する共同声明を発表したことも喜ばしい。ワーキンググループを設立し、民間レベルの経済協力に関する研究や議論を行う方針を決めたとも報じられた。

首脳会談の直後、中国共産党中央对外連絡部の部長が来日し、岸田首相ほかと面会し、日中与党交流協議会の再開で一致したとも報じられた。低迷していると言われる日中間の政治家レベルの交流の活発化が期待される。

日韓間では、6月1日木原防衛相と申源湜国防相がシンガポールで会談し、防衛当局間の最大の懸案となっていたレー

ダー照射問題を巡り共同プレス声明と発防止の文書をまとめ、2国間の防衛交流を再開させることで合意したことが報じられた。

3首脳間の合意をはじめとするこれらの諸合意を踏まえて、今後、日中韓3国間で次々と協力関係が模索され、構築されることが望まれる。

日中韓首脳会談の共同宣言が、日中韓3カ国関係にとどまらず、ASEANとの関係、ASEAN+3の協力を重視していることも喜ばしい。日本をはじめ世界が重視しているインド太平洋地域の平和と繁栄のためには、日中韓3カ国が良好な関係を保ち、協力することが必要である。

米中対立関係や南シナ海、東シナ海における中国の行動のため、中国に対しては対決に陥りやすいが、中国を含めて共存共栄の関係を築くことが必要であり、そのための先導役を現在の米国に期待するのは無理であり、日中韓+ASEANの出番である。

インドネシアの次期大統領のプラボウォ・スピアント国防相は6月1日シンガポールで開かれたアジア安全保障会議での演説で、米中双方に大国として大きな責任を果たすように求め、米中は共存し、世界の公益のために協力し合うことができると確信していると融合を訴えたと報じられた。日韓はASEANの有志と協力して、中国をその方向に誘導する使命を負っていると言えよう。

（専務理事・湯下博之）

6月14日付

ライシ・イラン大統領らに弔意



FECの松澤建FEC理事長は、5月19日に発生したヘリコプター事故で亡くなったエブラヒム・ライシ・イランイスラム共和国大統領とホセイン・アミールアブドッラーヒヤーン同外務大臣に弔意を表すためにイラン大使館を訪問した=写真。記帳台での記帳の後、ペイマン・セアダット駐日イラン大使と会談し、改めて弔意を表明した。

セアダット大使は松澤理事長に謝意を伝え、イラン国民が悲しみの中にいること、必ず国民は立ち直り前進するであろうと述べ、松澤理事長は共に前に進もうと激励した。



ベトナムフェス2024に18万人来場



6月1、2日の両日、東京・代々木公園イベント広場で「ベトナムフェスティバル2024」（主催：ベトナムフェスティバル2024実行委員会、共催：駐日ベトナム大使館）が開催され、約18万人が来場した=写真。

このイベントはベトナム政府公認で国内最大規模のベトナム交流事業として、経済・観光・人的

交流などさまざまな分野において両国関係を更に活性化する場として定着している。

日本とベトナムは昨年、日越外交関係樹立50周年を迎える、「アジアと世界における平和と繁栄のための包括的戦略的パートナーシップ」に格上げされた。

FECは長年、協賛企業として参加していて、元駐ベトナム大使の湯下博之専務理事も登壇した。

医療の進歩に貢献するサクラグループ

（皆様をウィルスから守る!）

（がんの迅速診断に!）



サクラ精機株式会社

<http://www.sakurajp.com/>



サクラファインテックジャパン株式会社

<http://www.sakurafineteck.com/>

サクラグローバルホールディングス株式会社

<http://www.sakuraghc.com/> TEL.03-3270-1666

地球はつなぐ、
化学でつなぐ！

東亞合成

医療の進歩に貢献するサクラグループ

（皆様をウィルスから守る!）

（がんの迅速診断に!）

サクラ精機株式会社

<http://www.sakurajp.com/>

サクラファインテックジャパン株式会社

<http://www.sakurafineteck.com/>

サクラグローバルホールディングス株式会社

<http://www.sakuraghc.com/> TEL.03-3270-1666



【5月27日】
アゼルバイジャン・ナショナルデー・レセプションにてギュルセル・グドラト・オグル・イスマイルザーデ大使（右）と松澤建FEC理事長



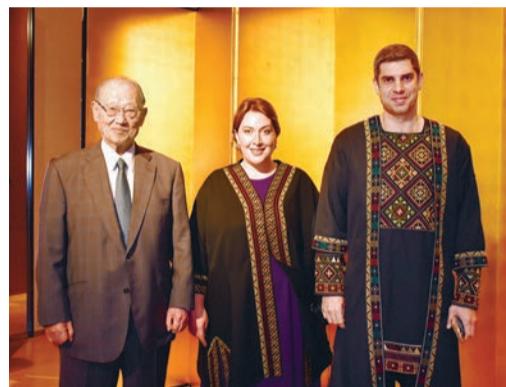
【5月31日】
イスラエル・ナショナルデー・レセプションにてギラッド・コーヘン大使（右）と松澤理事長



【6月11日】
スロベニア・ナショナルデー・レセプションにてユーリ・リフェル大使（左）と松澤理事長



【6月12日】
フィリピン独立宣言126周年記念レセプションにてミレーン・デ・ホヤ・ガルシア-アルバノ大使（左）と松澤理事長



【6月14日】
ジョージア独立記念日レセプションにてティムラズ・レジャバ大使夫妻（右）と松澤理事長

FEC活動日誌

7月と8月初めの催しの案内

◆8日（月）14時～15時30分

第114回中国研究会

講 師：金杉憲治駐中国大使

テーマ：最近の日中関係

会 場：オンライン

◆17日（水）14時～16時

第96回中東研究会

内 容：文化フォーラム

会 場：トルコ大使公邸

◆30日（火）12時～14時

第283回国際研究会（昼食懇談会）

講 師：熊谷亮丸（㈱大和総研副理事長

テーマ：日本経済の展望と課題

会 場：ホテルニューオータニ

◆8月1日（木）15時～16時30分

第90回アセアン研究会

講 師：正木靖駐インドネシア大使

テーマ：最新のインドネシア情勢

会 場：オンライン

詳細、最新情報は本協会ホームページ（<https://www.fec-ais.com>）をご覧いただぐか、事務局（電話03-3433-1122）にお問い合わせ下さい。いずれも定員に達し次第締め切りとさせて頂きますので予めご了承下さい。

平洋担当次官補を歴任後、21年より駐日大使。



ムカシネ・マリー・クレール氏（ルワンダ共和国大使）マーストリッヒト経営大学院にてMBA／行政学アウト

リーチプログラム／RIAM取得。1983年初等中等教育省行政長官、室長。第一審裁判所裁判官、ジェンダー・ファミリー推進省事務総長、国民保険法人局長等を歴任。2009年インフラ省事務次官、11年上院議員、20年人権国民委員会議長を経て、24年より駐日大使。

協会だより

【新名誉会員】



ギラッド・コーヘン氏

（イスラエル大使）

テルアビブ大学にて安

全保障・外交修士号取

得。マゲン・ダヴィッ

ド・アドム公社教官を経て、1994年外交官研修生。在ブラジル、在トルコ大使館、在NY国連政府代表部等に勤務。

2011年調整局局長、次官室室長、14年次

官室調整外交担当次官補、17年アジア太



100年の歴史を 紡ぐカクテル

1924年に誕生した帝国ホテル初の
オリジナルカクテル「マウントフジ」を
ご堪能ください。



帝国ホテル

TOKYO EAST SIDE HOTEL KAIE

東京イーストサイド ホテル 権会 TEL.03-3699-1403
東京都江東区潮見 2-8-11 <https://www.hotelkaie.jp>

JR 京葉線潮見駅 東口前

東京駅から7分。舞浜へは9分。
観光地へのアクセス便利な好立地！